

第16回パネル展 鹿児島

2009年12月



会場の県民交流センター



桜島が噴火



鶴のアーチ



鹿児島会場風景



鹿児島会場風景



鹿児島会場風景

南日本新聞200年12月8日



「展示で自殺問題について多くの人に知ってもらいたい」と語る伊福達彦理事長
—鹿児島市のかごしま県民交流センター—

過労自殺防止願い展示

50人の遺書、日記切々

職場での過労やストレスが引き金となり、うつ状態になって自殺した50人の遺書や生前の写真を集めた「私の中で、生きているあなた」展が10日から、鹿児島市のかごしま県民交流センターで始まる。12日まで

きょうから県民交流センター

主催、「自殺を社会問題として訴え、みんなは考えてもらいたい」と全国で巡回しており、鹿児島は初めて。会場には過密勤務に悩み、「仕事を続けていく気力も体力もない」などつぶった小児科医の中原利郎さん(当時44、東京都)の遺書や、「会社に迷惑かけていると思うなら、自分から身をひいたらどうや」と上

さん(当時56、兵庫県)の日記などを展示。遺族の手記もある。今回、鹿児島市の30代の自営業男性も自殺した妹の遺書などをパネル展示した。男性は「残された妻は一生つらい思いを抱えていく。展示で自殺を踏みとどまってくれんか」と話して「たうらと願う」と話す。10日午後は中原医師の妻のり子さんが会場を訪れる。入場無料。午前10時、午後6時(最終日は午後5時)。

第3種郵便物認可

悲劇繰り返さないで

過労やうつで自殺 50人の写真など公開

九州での開催は初め。主「働く者のメンタルヘルス相乗する大塚市のNPO法人、談室(伊福達彦理事長)が

「怒られるのも苦しい訳するも殺しました」「キキキキ」などという苦痛。過剰な労働を働いたことと過労やうつになり、自ら命を絶した人々の生前の写真や遺書を集めたパネル展「私の中で、生きているあなた」が10日、鹿児島市山下町の県民交流センターで始まった。「悲劇を繰り返さない」。遺族の強い願いが詰まっています。12日まで。

大阪市の特定非営利活動法人(NPO法人)「働く者のメンタルヘルス相談室」(伊福達彦理事長)が

「自殺を社会問題として訴え、みんなは考えてもらいたい」と全国で巡回しており、鹿児島は初めて。会場には過密勤務に悩み、「仕事を続けていく気力も体力もない」などつぶった小児科医の中原利郎さん(当時44、東京都)の遺書や、「会社に迷惑かけていると思うなら、自分から身をひいたらどうや」と上

さん(当時56、兵庫県)の日記などを展示。遺族の手記もある。今回、鹿児島市の30代の自営業男性も自殺した妹の遺書などをパネル展示した。男性は「残された妻は一生つらい思いを抱えていく。展示で自殺を踏みとどまってくれんか」と話して「たうらと願う」と話す。10日午後は中原医師の妻のり子さんが会場を訪れる。入場無料。午前10時、午後6時(最終日は午後5時)。

全国自殺死連発連発と連携して、2007年4月の京都府での開催を皮切りに、全国で開催している。パネル展では遺族の協力を受けて過労やうつ状態に陥って自殺をした50人の実名はつづり、遺書や手紙も併せて展示している。音楽教師などの3人の遺書を手に持つ遺族の姿も目撃された。パワーハラスメント被害を訴える遺族も、06年に自殺した鹿児島市の女性中学教師(当時30)の写真も展示されている。

伊福理事長は「元気な人の写真を見て、残した言葉を読んで、なぜか生きて生かす命を絶たねばならなくなるとか考えたりしない」と話している。

この日は、09年に自殺した総合病院の小児科医(当時44)の妻、中原のり子さん(53)東京都中央区が訪れた。夫は職場の机に「少子と産後うつをばさまでいっしょに遺書を残した。小児科医のせい」が書いてある。少ない人数の遺族の遺書を手にいられた左は「この開催の

中では医師という職業を誇っている方もあるが、それと書道も書いていた。

07年、夫の自殺は過労による。だが、病院の首は高裁で認められては、現在最悪な状況に陥っている。遺族も「大層な人、そんな大層な手紙を、いっしょに」を浮かべながらも懸命に話した。

警察によると、07、08年の県内の自殺は合計111人、うちうつ病が原因と考えられるのが72人、職場の人間関係が引、県庁職福社課の担当者「自殺の原因は時々の複雑な職場の不和が原因、家庭内不和が原因、またそのほかあり、今年8月、県内にも自殺者の会(むかしの会)が、このつむぎの会」ができた。同会は「遺族の方が多い。話を聞いたり、行政の支援が必要ないかな」と話した。

朝日新聞2000年12月9日